植木病院だより

Vol.27
平成29年10月

発行所 〒861-0136 熊本県熊本市北区植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117
熊本市立 植木病院
発行人 内野良仁





暑い夏も終わり、当直をしていると当院2階にある吹き抜けの植栽に開院時から住み着いている鈴虫の音が聞こえる季節となりました。

さて当院では、この6月より市民病院呼吸器内科医師の隔週派遣に変わり、熊本大学医学部附属病院呼吸器内科医師が毎週水曜日に外来応援に来てもらえることとなり、呼吸器疾患を抱えた住民の方へのサービスを向上させることができるようになりました。さらに10月より1名の脳神経外科医師を常勤で迎えることとなり、当該領域の患者様の診療に対応が可能となります。詳細は当紙面で紹介いたします。

9月30日には、高齢化社会に向け「地域ケアシステム」構築・普及のため医療者や介護に関わる多職種のネットワークである“植木町地域支援「すいか」倶楽部”主催の市民フォーラムが当院エントランスホールで開催され、当院訪問看護師もシンポジストとして自身の経験をもとに意見を発表していました。この中で住民の皆様の中に在宅医療を望まれている方がたくさんおられ、この需要に対して我々医療サービスが十分ではないことを実感しました。この様な地域の活動に当院職員も積極的に参加し、また紙面でも紹介しますが、在宅復帰を目標とした取り組みも密に行いながら、国保直診施設の基本理念である「地域包括ケア」の中核としての責任を果たしていこうと思います。特に今後必要とされる、在宅医療などの提供を最前線で行なわれている地域の先生方の診療、その患者様方の在宅療養が安心して続けられるよう、従来から取り組んでいる救急時の受け入れや、バックベッドとしての役割を継続していきたいと考えます。

副院長　勇　　聡

外来診療のご案内

（平成29年10月1日現在）

診療科＼曜日		月	火	水	木	金
内科	午前	勇　聡	勇　聡	勇　聡	勇　聡	三原　通晴
		豊田　直以	三原　通晴	一森　伸二	一森　伸二	一森　伸二
			岩﨑　智仁	三原　通晴	豊田　直以	岩﨑　智仁
				岡林　比呂子 熊大病院呼吸器科		
循環器内科	午前	廣田　晋一	廣田　晋一	熊大病院循環器科	廣田　晋一	熊大病院循環器科
外科	午前	石川　晋之	松尾　彰宣	内野　良仁	松尾　彰宣	石川　晋之
整形外科	午前	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久
脳神経外科	午前	吉里　公夫	吉里　公夫		熊大病院脳外科	吉里　公夫
午後　総合内科	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

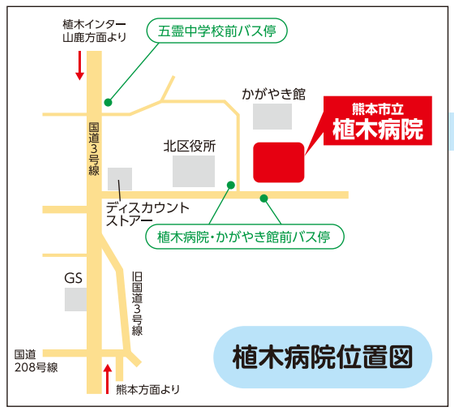
※　熊本大学病院の脳神経外科は第２・第４木曜日の午前中のみです。
※　呼吸器科の熊本大学病院からの派遣医は、当日直接来院されてない場合がありますので、事前の予約をお願いします。
※　当院では、再診予約制を取っております。診察時に次回予約を行ってください。また、予約変更の電話については、午後にお願いします。
※　午後の総合内科は内科系医師が担当します。

診察受付時間：平　日／ 8：30～11：30
14：00～16：00
休　診　日：土曜日・日曜日及び祝祭日
年末年始（12月29日から翌年1月3日）
※ 急患の方はこれに限らず24時間対応致します。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」がございますので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

■地域医療連携室
電話：TEL096-273-2111（代表）
FAX096-272-2117（代表）



交通アクセス

路線バス　九州産交バス：北区役所・小野泉水　行
熊本電鉄バス：北区役所　行
いずれも「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

循環バス　ゆうゆうバス（熊本電鉄バス）植木循環ルート
「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

乗用車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道　植木インターから10分

編集後記

黄色い稲穂が棚田とそれを取り囲む彼岸花♪「番所の棚田」を訪れて、秋を実感しました。皆さんの周りにはどんな秋が訪れていますか？体の変化として夏の疲れを感じて不調を感じてはいませんか？当院でも脳外科の新任Dr.をお迎えすることになりました。何か体の不調を感じられるときは、いつでも気軽に外来受診されてください。当院スタッフ一同親切丁寧に対応いたします。

（成松）

やっぱり家に帰りたい！！
長期入院患者様への在宅復帰支援



今回は、元々独居生活で、胃全摘術後、栄養障害にて長期間御入院されていた80代患者様が退院されるまでの在宅復帰支援についてご紹介致します。他院にて手術され、再手術を含むさまざまな合併症を乗り越えられた後、高度の廃用症候群の状態で、約2年前に当院へ転院されました。栄養摂取は経口と経腸を併用し、リハビリテーションにて徐々に離床を図り、転院1ヶ月経過する頃には歩行訓練までステップアップできました。ご本人様の希望は「経腸栄養なしで、介護サービスに頼らず自宅に帰る」ということでした。そうこうしているうちに熊本地震でご自宅が被災し半壊状態と判断されてしまいます。娘さんや息子さん家族との同居は難しく介護者不在という状況にあり、栄養状態改善の遅れとともに在宅復帰への環境調整に時間を要し、入院は長期化しました。

そんな折、転院から約1年10か月、お孫さんより同居を提案されます。それから、ご本人様も退院に向けて意欲的になられました。退院には介護サービスが必須の状況でしたが、サービスの種類や料金など具体的な内容が分からず不安を抱かれておられましたため、可能な限り情報提供を繰り返し行いました。



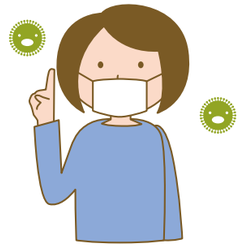
また、それらの情報はその都度、他職種にも伝え情報の共有を図りました。その後、経口摂取のみで栄養状態を維持できるようになり経腸栄養を中止することができました。次第に全身状態も安定し、ご本人様の退院への意欲もさらに高まり、歩行器歩行が自立、最終的には入浴以外のADLもほぼ自立されました。

転院から約2年、なんとか退院に向けての退院調整会議を実施することができました。お孫様宅はエレベーターなしのアパートの3階ということでしたので、実際の場面に近い状況下での歩行訓練や階段昇降訓練を中心にリハビリテーションを実施しました。ご本人様、ご家族、ケアマネージャー、福祉用具業者、作業療法士をまじえて退院前訪問を実施し、必要な福祉用具の選定、介護サービスの提案を行いました。それから外泊訓練を実施し福祉用具の設置、介護サービスの準備が整い、転院から2年1ヵ月後に患者様は笑顔のなか退院の運びとなりました。

＜まとめ＞

今後も、患者様の「家に帰りたい!」という気持ちを大切にし、多職種で連携し、退院に向けて全力でサポートして行こうと思います。

冬期に多い身近な感染症



①インフルエンザ

＜病気の特徴＞

例年12月～翌3月下旬の冬期に流行し、1月～2月上旬がピークです。

＜感染経路＞

インフルエンザの患者さんから咳とともに飛び出したウイルスが、他の人に付着し感染します（飛沫感染といいます）。それから1～3日後に症状が出てきます。

＜症状＞

38℃を越える発熱、頭痛、腹痛、だるさ、のどの痛み、咳などです。

＜日常生活の注意点＞

大事なのは**“マスク”**です。冬場に人混みに出かけるときには、インフルエンザをもらわないようにするためと、すでにかかってしまった場合には他の人にうつさないようにするために、**マスクを着けましょう。**

病院を受診するときも、病院に入る前からマスクを着けておくことが大事です。10月からは予防接種も始まります。特に65歳以上の方、風邪をひきやすい方、糖尿病・心臓病などお持ちの方は特に、予防接種を受けるようにしましょう。

②ノロウイルスによる感染性胃腸炎

＜病気の特徴＞

ノロウイルスという名前のウイルスによって起こる胃腸炎です。これも冬に多く起こります。

＜感染経路＞

食べ物では貝類（とくにカキ）が原因になります。他にも、ノロウイルス感染の患者さんが触れたトイレ、ドア、机などに接触後、鼻・口から入って感染し（接触感染といいます）、調理に関わると集団感染を起こす危険があります。

＜症状＞

下痢、発熱、腹痛、嘔吐などです。



＜日常生活の注意点＞

大事なのは**“手洗い”**です。流水と石けんで十分に手洗いすることが大事です。ノロウイルスは、寒さや乾燥に強く、感染力も強いのでとてもうつりやすく広がりやすいため、できるだけ人にうつさないようにすることが大事です。具体的には、嘔吐物や下痢便を直接触らない。触らなければいけないときは、手袋とマスクをつけて処理します。処理後は、50倍に薄めたハイターなどでふき取るとウイルスの拡散を抑えることができます。自分がかかってしまったときは、できるだけ水分やゼリーなど食べられるものを食べ、水分も飲めないほど嘔吐が続くときには病院を受診してください。